

## 末梢ブラッドアクセス(BA)作成困難でカフ型長期留置カテーテル(PTC)を挿入した患者への介入

医療法人衆和会 長崎腎病院

○小野川祐子 北村志保 内野澄子 橋本沙織 丸田麻莉絵 山口貢正 船越 哲

### 【はじめに】

末梢での BA 作成が困難な症例に対する PTC の有用性が報告されているが、自宅での PTC カテ管理は医療者が介入することが望ましい。今回 PTC 挿入後、入院中に医療者の関与に拒否的であった症例への退院支援について報告する。

### 【症例】

65 歳男性、独身、独居。2021 年 3 月に血液透析を導入した。自己血管は細く、翌月には人工血管造設、しかし 7 月に人工血管が感染したため抜去術施行、再度人工血管を造設した。同年 12 月には化膿性脊椎炎と腸腰筋膿瘍のため大学病院に 3 か月の入院、退院後も 2022 年 7 月に再度人工血管が感染し、当院入院の上 PTC を挿入することになったが、一連の BA 関連のトラブルが続き、患者には PTC 挿入に対する抵抗と不満が推測されたため、上記患者の心情を踏まえて PTC ケアを指導した。

### 【経過】

指導に対しては拒否的で、看護師の提案した指導方法は行わず、自己判断でやりやすい方法を模索していた。本人の意欲を削がないよう訴えに寄り添い対応し、指導内容の統一性を保つため、固定したスタッフで指導を行った。

### 【考察】

BA に関して特殊な既往のある患者に対し、看護師が主体の指導ではなく患者の意見を尊重し、意欲を低下させないよう指導を継続することができたと考える。